

(8) 具同小学校

学 校 長 宮川 成也

校内研究代表者 泥谷 真里

1. 研究主題

「自ら課題をつかみ 思考し 表現し合う授業づくり」

～指導過程を創造して～

2. 主題設定の理由

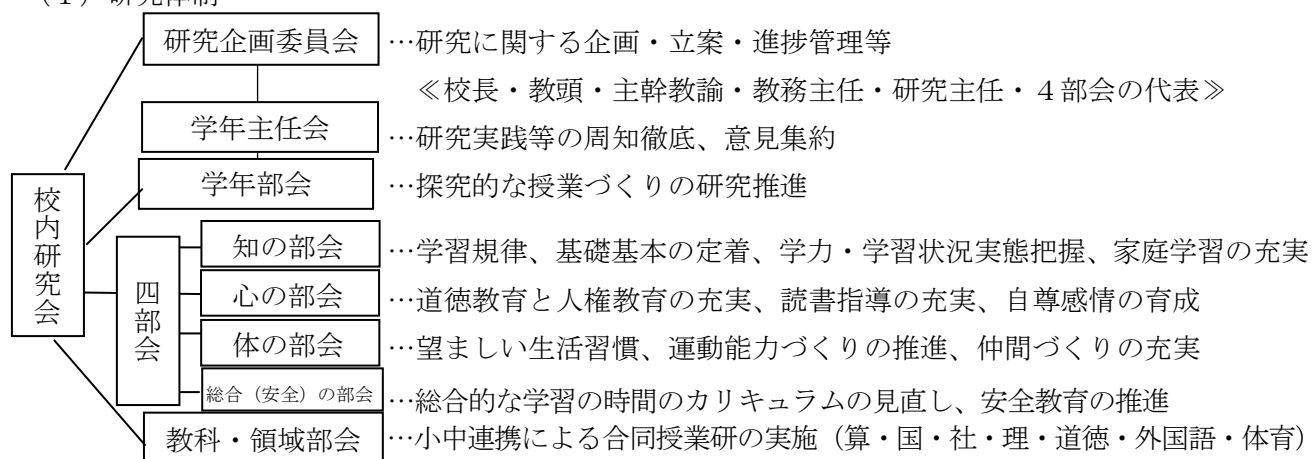
次代を担う子どもたちには、生涯にわたる「生きる力」として①確かな学力 ②豊かな人間性 ③健康・体力の3つを育むことが必要である。特に、「知識基盤社会」の時代となった今日、変化の激しい社会に対応するための汎用的能力も求められている。また、日常生活や社会の中で、容易には解決できない複合的な問題も多くあり。多様な視点から積極的に探究する中で、納得できる見方や考え、解決の方法等を自分たちで生み出すことも求められる。

本校では、平成27年度より3年間、中村西中学校とともに小中連携のモデル校として、高知県教育委員会指定「探究的な授業づくりのための教育課程実践事業」を受け、総合的な学習の時間の指導計画(カリキュラム)及び授業づくりについての研修を深めるとともに、習得・活用・探究へのつながりを意識した授業の構築を図るべく授業研究に取り組んできた。また、平成30・31年度には、高知県教育委員会「算数・数学授業向上プラン重点訪問校」の指定ともリンクさせ、主体的・対話的で深い学びのある授業構築を目指し、研究実践に取り組んできた。特に、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、日常生活や社会の事象などを数学的に表現した問題へと変えていく問題発見・解決の指導過程を大切にして授業改善を図ったことで、これらを意識した授業実践が徐々に広がってきている。

今年度は、高知県学校安全総合支援事業の指定を受け、中学年を中心に生活安全に重点を置いた取組を行っていきにあたり、これまでの研究実践をベースにして、単元デザインや授業デザイン等の指導過程を創造しながら、総合的な学習の時間の中で更なる探究型の授業実践を追求していく。またその他の研究教科を体育科、国語科及び外国語科とし、各教科・領域を横断的に関連させること、中村西中学校との系統性を考慮すること等、指導過程の創造をキーワードとしながら、総合的に学習活動を展開し、自ら課題をつかみながら、思考力・表現力を育むことのできる授業実践を目指していく。

3. 研究の進め方と方法

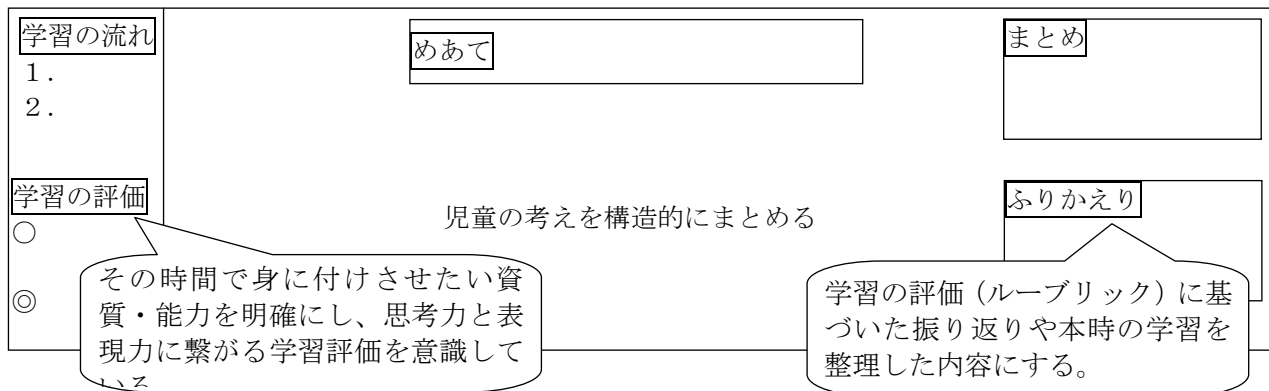
(1) 研究体制



(2) スタンダードをもとにした授業実践

授業改善に向けた主な取り組みとして、スタンダードをもとにした授業実践を行った。

下図の板書例を基本とし、具同小スタンダードの確立を目指して、校内研の中で全教員が板書写真を持ち寄って交流し合う等、授業の均質化を図った。



4. 今年度の主な取組

今年度も昨年度に引き続き『新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善』に取り組んだ。研究教科・領域を絞らず総合的な学習の時間、体育科、国語科、外国語科と幅広く設定し、校内研究テーマ「自ら課題をつかみ 思考し 表現し合う授業づくり ～指導過程を創造して～」に基づき授業改善を行った。

(1) 第3学年 総合的な学習の時間『安心・安全なまちづくり』～四万十を安全・安心にしよう大作戦～

探究のプロセス (①課題の設定 ②情報の収集 ③整理分析 ④まとめ・表現) を回し、思考を深めることのできる単元デザインのもと授業実践を行った。

① 課題の設定

交通安全教室…交通安全の視点から具同地域が安全かどうかを確認する校区探検を実施。
防犯教室…講師(中村警察署)から、防犯の視点からも校区探検してみることの提案。

② 情報の収集

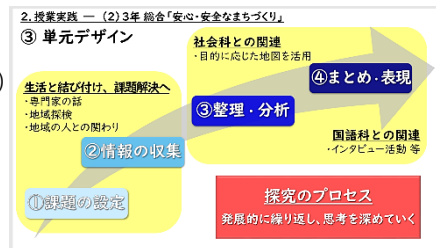
小グループに分かれての校区探検を2回実施。(交通安全・防犯)

③ 整理・分析

課題を情報収集し、整理する中で各班からの課題を焦点化。

④ まとめ・表現

- ・新たな「こども110番の家」がどこに必要なのか、根拠を基にしたの話し合い活動。
- ・児童朝会での活動報告。
- ・ぼくたちの町の安心・安全マップ(こども110番マップ)と、こども110番の家についての紙ファイルを全家庭へ配付。区長を通じ地域の掲示板等への掲示依頼。



(2) 第5学年 体育科『One teamでタッチダウン!フラッグフットボール』～子どもの心に 火をつける 体育授業～

○手立て1 指導過程の工夫

- ・前時の児童の困り感から、児童との合意形成のもと課題を設定する。

○手立て2 見方・考え方を働かせるための工夫

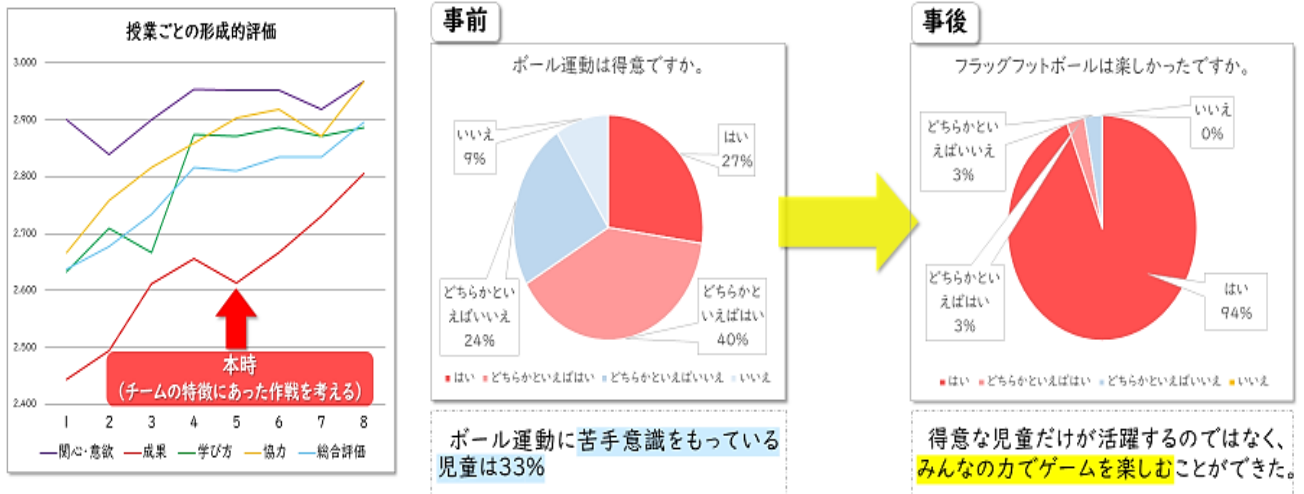
- ・以下の「体育科の見方・考え方」を活かした体育科の授業を行う。

解説 体育編 P.18
「体育の見方・考え方」とは
 生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点からとらえ、自己の適正等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」であると考えられる。

「する」こと	「みる」こと	「支える」こと	「知る」こと
意図的な攻撃をすることを楽しむ	仲間のプレイの良さを見つける	勝つため・楽しむために自分の役割を果たす	高めるためのポイントや方法を知ろうとする

フラッグフットボールの特性を多様な関わり方で捉える

- ・授業を終えて



5. 今年度の成果と課題【成果：○ 課題：●】

- 内容ベースから資質・能力ベースへの授業の質的転換をめざし、研究教科・領域を絞らず、総合的な学習の時間をはじめ複数の教科において、全校研や公開授業研究会を実施することができた。その中で、特に、各教科・領域の見方・考え方を働かせた単元・授業デザインを行う必要性について、学びを深めることができた。
- 校内研修に係っての教職員アンケート「①研究主題を意識して、目的意識をもって研究や教育実践に努めている。(92.3%)」「②研究授業・公開授業・講師招聘・先進校視察等で学んだことを授業改善や日々の授業実践に役立て、資質・指導力が向上している。(96.1%)」において、肯定的評価が昨年度を上回った。
- これまでも大きな課題として捉えていたことだが、今後益々、各教員の授業力の均質化が求められる。特に若年教員の授業力向上は大きな課題であり、研究授業はもちろんのこと、メンター制を活用しての取組等について、研究企画委員会が具体的なビジョンを示しながら、チーム学校として研修を積み重ねていく必要がある。